

キク白さび病

【学名 : *Puccinia horiana* P. Hennings】



写真1 白さび病の病斑

【被害と発生生態】

- ・発生部位…主に葉
- ・発生好適条件…冬孢子（葉にできるイボ）の発芽適温は18～22℃，小生子（冬孢子が発芽したもの）の発芽適温は13～18℃で，多湿時に発生しやすくなります。

【見分け方】

- ・初期の段階では，葉の裏側に小さな白い斑点ができます。葉の表側には淡黄色の斑点が見られます。
- ・病勢が進むと，白いイボ状の斑点が葉裏一面にできます。更に進むと，葉の表面や茎にも病斑ができます。
- ・斑点は，やがて淡褐色になり，発病葉が巻き上がります。

【対策】

- ・発生好適温度で，降雨や葉に濡れが見られる場合は，予防的に薬剤散布を行ってください。
- ・発病株は早めに除去し，処分（焼却など）してください。
- ・抵抗性品種を栽培すると効果的です。

参考文献

原色病害虫診断防除編9 花/雑草，農山漁村文化協会